



# 第 931 号 ミニかわら版

令和 6 年 10 月 15 日  
(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

ヤマダ総合公認会計士事務所  
代表 山田良平

〒124-0012  
東京都葛飾区立石 1-12-11 ヤマダビル  
TEL:03-3694-6091  
FAX:03-3691-6680

## NISAの買付額、6月末時点で約10兆円に増加

金融庁が公表しました「NISA口座の利用状況調査」結果によりますと、令和6年6月末時点で令和6年の利用枠におけるNISAの買付額が令和6年3月末時点から3ヵ月で64.0%増加の約10兆1341億円になり、NISA口座数の累計は同4.5%増の2427万6789口座にのぼったことが明らかになりました。この伸びの背景には、今年1月から始まった新NISA制度をきっかけに、預貯金を投資に振り向ける動きが広がってきたことがあるようです。

新制度は、制度を恒久化するとともに、運用益の非課税投資期間も無期限となりました。また、NISAの年間の投資枠は、投資信託を毎月積み立てる「つみたて型」については改正前の40万円の3倍の120万円に、国内外の上場株に幅広く投資できる一般NISAの機能を引き継いだ「成長投資枠」は同120万円の2倍の240万円にそれぞれ拡大されました。合計で年360万円の投資枠を設け、貯蓄から投資の流れを促す狙いです。

金融庁によりますと、令和6年6月末時点の新NISAの買付額は、「成長投資枠」が令和6年3月末から54.2%増の約7兆9163億円、「つみたて投資枠」が同112.5%増の約2兆2178億円の合計約10兆1341億円でした。商品別の買付額の割合は、「投資信託」が60.5%、「上場株式」が36.1%でした。また、年代別の買付額の割合をみますと、「50歳代」が20.9%で最も高く、「40歳代」が20.1%、「60歳代」が18.7%のほか、「30歳代」も16.4%と幅広い年齢層に買い付けられています。

「成長投資枠」の商品別の買付額の割合をみますと、「投資信託」が49.5%と「上場株式」(46.2%)をわずかに上回っています。年代別の買付額の割合では、「50歳代」(20.7%)、「60歳代」(20.6%)、「40歳代」(18.7%)、「70歳代」(15.7%)の順でした。また、「つみたて投資枠」の商品別の買付額の割合では、「投資信託」が99.5%とほとんどを占めています。年代別の買付額の割合では、「40歳代」(25.2%)、「30歳代」(25.0%)、「50歳代」(21.4%)、「60歳代」(12.0%)の順でした。

\*詳細はこちらからご確認いただけます。

「NISA口座の利用状況に関する調査結果の公表について(金融庁)」令和6年9月17日  
<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20240917.html>

